

成果と課題

成果

全体指導がよりUD化されてものになったことで、個別指導の場が減り、生徒の心理的な負担や教員の負担を削減することができた。

教員それぞれのUD化に対する理解が深まり、生徒に対するだけでなく、保護者や教職員へUD化の考えを活かした対応ができるようになった。

課題

教員主導でUD化すべき内容を考え、実践してきたが、生徒から出た困り感や悩みを解決できるような内容を実践していく。

教職員がUD化に対する意識や理解が高い土壌を次年度以降も継続できるよう年間の研修会で教員の意識を揃えていく。

UD化を一層推進し、全ての生徒の学びを保障していくために特別支援教育と通常の学級の両者が互いの専門性を尊重、理解し合うとともに、自己の領域にない視点を取り入れ合っていく。

ご指導いただいた先生方

立正大学心理学部教授 千葉県公立学校 スクールカウンセラー

鹿島 真弓先生 明里 春美先生

明星大学大学院 心理学研究科心理学専攻教授

小貫 悟先生

研究に携わった教職員 (R5年度)

副校長	吉田 一隆	教諭	辻 善之
主幹教諭	飛澤 宏明	教諭	加登谷 沙良
教諭	安藤 俊明	非常勤教員	飯田 朗
主任養護教諭	安田 麻衣子	教諭	高橋 昂輝
主任教諭	伊藤 要輔	用務主事	菊地 広実
教諭	鈴木 千里		

研究に携わった教職員

校長	稲葉 裕之	
副校長	西村 伸也	
第一学年	1組担任・学年主任	主幹教諭 東口 愛
	2組担任	教諭 相田 舜朔
	3組担任	教諭 大橋 勇斗
	4組担任	主任教諭 高橋 三保子
	5組担任	主任教諭 ○桑野 真嘉
	副担任	教諭 原 ちあき
	副担任	教諭 飯田 夕乃
	副担任	教諭 宮本 ゆうか
副担任・養護	主任養護教諭 川名 理香	
第二学年	1組担任・学年主任	主幹教諭 ○福田 敦子
	2組担任	教諭 阿部 太紀
	3組担任	主任教諭 桃井 有子
	4組担任	教諭 ○山内 慶祐
	副担任	主任教諭 須藤 義裕
	副担任	主任教諭 渡邊 洋津幾
第三学年	1組担任・学年主任	主任教諭 橋口 慶
	2組担任	教諭 土門 恵利
	3組担任	教諭 平沼 滉大
	4組担任	主任教諭 ○佐藤 浩子
特別支援学級	副担任	主幹教諭 島貫 勝義
	副担任	主任教諭 安達 房子
	副担任	教諭 渋谷 健志郎
	1年担任	主任教諭 佐久間 信次
	2年担任	教諭 ○瀧口 莉彩
	3年担任・学級主任	教諭 上野 凌
	副担任	教諭 半沢 まゆみ
事務	海野 右介	
	高橋 明江	
	名倉 晴子	
用務主事	森 利恵	
	飯島 道子	
	木村 こずえ	
栄養士	古田 明恵	
学校司書	須貝 真美	
SSW	小松 朋子	
心理専門員	山下 陽平	
都SC	徳村 勇起	
特別支援教育支援員	伊藤 久美子	
	竹田 加代子	
特支学級介助員	松浦 美奈子	
	吉川 咲子	
特別支援教室専門員	刑部 之康	
特支教育補助員	荒井 夢沙志	
	山本 陽葉	
スクール・サポート・スタッフ	小林 広美	
副校長事務補佐	村岡 徳司	

○研究推進委員長 ○研究推進委員

令和5・6年度 荒川区教育委員会 教育研究指定校

〈研究主題〉

全ての生徒の学びを支え、 生きる力を育む

特別支援教育の推進

～教育活動のユニバーサルデザイン化～



教育委員会あいさつ

本区では、令和6年3月に策定した『荒川区学校教育ビジョン 学びの推進プラン(第3期)』において、「ユニバーサルデザインの普及を図る」ことを推進目標に掲げ、障がいの有無に関わらず全ての子どもにとって「分かる授業」を展開していくため、ユニバーサルデザインを取り入れた子どもたちが落ち着いて学べる環境づくりを推進しています。

このような中、本校では、令和5・6年度荒川区教育委員会教育研究指定校として、「全ての生徒の学びを支え、生きる

力を育む特別支援教育の推進～教育活動のユニバーサルデザイン化～」を主題に掲げ、どの生徒にとっても安心して学び、生活できる教育環境づくりを目指して研究を進めてきました。

本校での取組が他の中学校だけでなく、小学校にも広く周知されることにより、荒川区の全ての子どもに対する特別支援教育が充実していくものと期待しております。

荒川区教育委員会教育長 高梨 博和

荒川区立尾久八幡中学校

東京都荒川区西尾久三丁目14番1号 TEL 03-3893-7776
https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/OGUHACHIMAN-J/

都電「小台」または「宮ノ前」下車徒歩5分
都バス「西尾久三丁目」下車徒歩3分 JR田端駅より【東43】荒川土手行きに乘車
日暮里・舎人ライナー「熊野前」下車徒歩12分



生徒を幸せにする学校を目指して 教育活動のUD化に取り組んでいます。

校長あいさつ

本校では、令和5・6年度荒川区教育委員会教育研究指定校として、「全ての生徒の学びを支え、生きる力を育む特別支援教育の推進 ～教育活動のユニバーサルデザイン化～」を研究主題とし、「教室環境」「人的環境」「授業」の3つの構成要素でのユニバーサルデザイン化について、研究・実践に取り組んでまいりました。そして、このたびの成果報告に

あたっては、実践を進める際にヒントとして活用いただけるよう、リーフレット・発表をご準備させていただきました。皆様の各校での取組に、お役立ていただければ幸いです。

結びに、この2年間ご指導ご支援いただきました皆様により感謝申し上げます。

荒川区立尾久八幡中学校長 稲葉 裕之

研究の構想図

尾久八幡中学校が考える 「教育活動のユニバーサルデザイン化」

生徒の実態

特別支援教育を受ける生徒の増加
外国籍生徒の増加
不登校生徒の増加
↓
多様な生徒が増加し、同じ教室で学んでいる。

学校教育目標

夢や目標をもって「主体的に活動する」ことができる
知・徳・体の調和のとれた自ら学び、思いやりのある
たくましい生徒を育成する。

教職員の願い

学校に委ねられることが多くなり、
結果として学校及び教師が担うべき
業務の範囲が拡大され、その負担を
軽減したい。

研究仮説

様々な特性のある生徒が同じ教室で学んでおり、個別に対応していくことには限界がある。そこで「教育活動のユニバーサルデザイン化」の視点を取り入れることで、どの生徒にとっても、安心して学び、生活できる教育環境となり、その支援につながるであろう。
※以下、ユニバーサルデザイン化=UD化とします。

「教育活動のUD化」のための 3つの構成要素

- 1 人的環境のUD化
～安心でき、居心地のよい学級・学校に～
- 2 教室環境のUD化
～誰にとってもわかりやすく、集中できる施設環境に～
- 3 授業のUD化
～理解しやすく、取り組みやすい授業に～

研究主題

全ての生徒の学びを支え、夢や希望を育む
特別支援教育の推進
～教育活動のユニバーサルデザイン化～

研究の概要

八幡中が考える「教育のUD化」

発達障害をもつ生徒や不登校の生徒など、本校を含む現代の学校には、様々な特性のある生徒が同じ教室で学んでいます。しかし、教員が限られた資源のなかでそれぞれに個別に対応していくことに困難を感じています。そこで本校では、「教育のUD化」の視点を取り入れることで、教員の全体への指導が、どの生徒にとっても、安心して学んで、生活できる教育環境を目指し、本研究に取り組むことにしました。

「教育活動のUD化」のための 3つの構成要素

本校の特色である教科教室型をもとに、3つの構成要素として5つの具体的な取組を実践することで、全ての生徒にとって安心して学ぶことができる教育環境になると考えました。

※教科教室型とは各教科専用の教室を設け生徒が授業ごとに移動する形態



1 人的環境のUD化 ～安心でき、居心地のよい学級に～

- I 年間を見通した人間関係構築トレーニング(八幡SUP)の実施

2 教室環境のUD化 ～誰にとってもわかりやすく、集中できる施設環境に～

- II 時間の構造化(連絡ホワイトボードや電子黒板の活用)
- III 視覚の工夫(表示の拡大化や見える化の推進)

3 授業のUD化 ～理解しやすく、取り組みやすい授業に～

- IV 授業展開の形式化
- V 授業展開の工夫

UD化視点の分類

焦点化：目標の設定、振り返り、指示の精選
視覚化：目標・流れの表示、板書の方法
共有化：ペア学習、班活動、発表
構造化：時間管理、スモールステップ、導入の工夫

人的環境の
UD化

教室環境の
UD化

授業の
UD化

出典：阿部利彦編著「通常学級のユニバーサルデザイン プラン Zero」を参考に作成

安心でき、居心地のよい 学級・学校に



I 年間を見通した人間関係構築トレーニング(八幡SUP)の実施

※八幡SUPとは対人関係に必要なスキルを身につけるトレーニングのこと (skill UPの略語)

年間を通じて、学年の実態や成長過程に応じた内容で、人間関係づくりに必要なスキルを各学級担任が学級活動や道徳等で身につける計画を立てました。また、必ず授業の導入で目標を確認し、まとめてふりかえりシートを記入する形式を全学級で統一しました。

●八幡SUPの全体指導計画(特別支援学級は通常学級に入って活動)

	第1学年	第2学年	第3学年
1 学期 リレーションの形成 ※リレーションとは「関係性」や「つながり」を意味する用語で人と人とのつながりを重視する概念	エンカウンターやSST実施(学期始め)		
	パスデイライン 等	自己紹介伝言ゲーム 等	自己紹介すごろく 等
	エンカウンターやSST実施(各行事に向けて)		
	無人島SOS 等	いいとこさがし 等	ダイヤモンドランキング 等
2 学期 アサーションの獲得 ※アサーションとは他者のことを考え思いやりつつ自分の考えを明確に伝えようとする概念	Hyper QU実施(6月頃)		
	Hyper QU分析・フィードバック(学期末)		
	エンカウンターやSST実施(学期始め)		
	教室はどこだ?? 等	自己紹介BINGO 等	アド・ジャン!トーク 等
3 学期	エンカウンターやSST実施(各行事に向けて)		
	動物エゴグラム 等	ダイヤモンドランキング 等	ダイヤモンドランキング 等
	QU実施(10月頃)		
	QU分析・フィードバック(11月頃)		
3 学期	エンカウンターやSST実施(学期始)		
	アド・ジャン!トーク 等	上手に自分を表現しよう 等	二者択一 等
学年全体の振り返り(学期末)			

●八幡SUP授業の1時間(例)

実施日 9月4日(水)⑤ 全クラス 学級活動

目標 自分のことを話す活動を通して、互いを理解し合い、よりよい人間関係を築く。

使用教材 ワークシート、振り返りシート 形態 5～6人のグループ(生活班)

進め方

本時の目標を確認させる

目標

自分のことをより知ってもらえるように話をしよう。また、友だちのことをよりよく知ろう。

ルール(流れ)の確認

流れ

①目標の確認→②ワークショップの確認→③班活動→④振り返り

(10分)

I 「アド・ジャン」と言いながら「グー」または、指1本から指5本までのいずれか。

II 班全員の指を合計した数のお題について順番に話します。合計が2桁になったとき、1の位の数でお題を決めます。

III 全員が話し終わったら、再度「アド・ジャン」をして新たなお題で話します。

【大切な約束】

- 「礼儀正しく・笑顔で話しながら・ふざけない・否定しない」を守りましょう。
- 話したくないお題については、無理に話す必要はありません。笑顔で「パス!」と言いましょう。



(30分)

ワークショップをさせる

アド・ジャンをして、お題に沿って対話を進める。

(10分)

振り返りをさせる

今日の活動を振り返り、交流する。

※実際に授業で活用したワークシートはこちらから→



成果と課題

- ・学級の生徒全員が八幡SUPの取組を楽しく行うことができ、自然にルールに沿った行動をする生徒が増えた。
- ・学級内にルールが定着し、生徒同士が安心して交流できるようになり、リレーションも形成された。
- ・学級担任が、明確な目的意識をもって八幡SUPを行うことで、学級集団の実態を把握することができた。
- ・学級内で生徒がより自分らしく主体的に活動できるように、一人ひとりを支援する、それぞれにあわせた八幡SUPを行う必要がある。

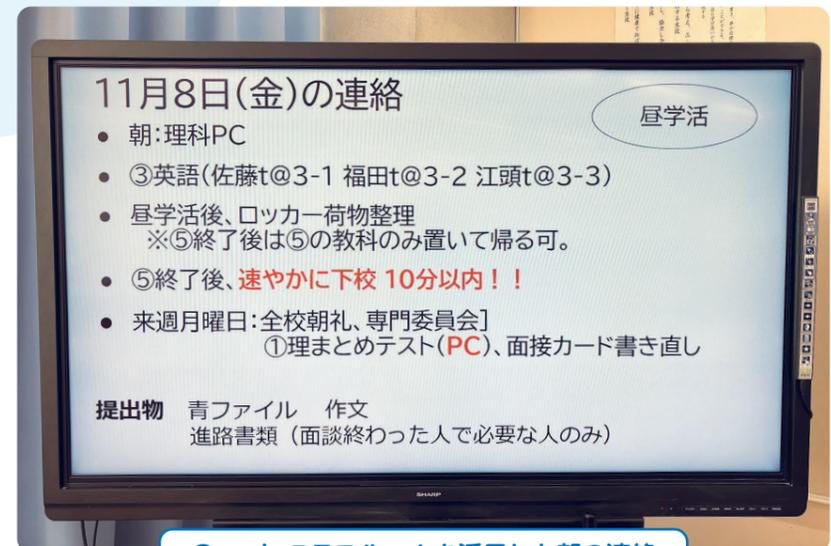
2 教室環境のUD化

誰にとってもわかりやすく 集中できる施設環境に



II 時間の構造化(電子黒板(1日の連絡)や時間割ホワイトボードの活用)

Googleクラスルームを活用した朝の連絡や時間割ホワイトボードを用いて、特定の生徒だけでなく、生徒全員が快適に過ごせるような環境を作りました。朝の連絡は、ホーム教室にいない場合や欠席した場合でも、いつでもどこからでも確認できます。また、ホワイトボードでは、提出物の一元化をし、時間割とともに、持ち物に関すること全てを確認することもできます。



Googleクラスルームを活用した朝の連絡



授業や提出物等の連絡

III 視覚の工夫(表示の拡大化やみえる化の推進)

学校の決まりを生活しながら習得することは難しい生徒に対して、あたりまえの、あるいは既知っているはずのルールを視覚化する支援によって学校生活がスムーズに進むと考えました。



教室表示の工夫



廊下掲示の拡大



ロッカー収納見本

成果と課題

- 生徒が見通しをもって授業準備ができ、落ち着いた状態で授業に取り組むことができた。
- 校舎内での教室間違いによるトラブルが減った。
- UD化を行う程度を生徒と一緒に検討していくことが今後の課題である。

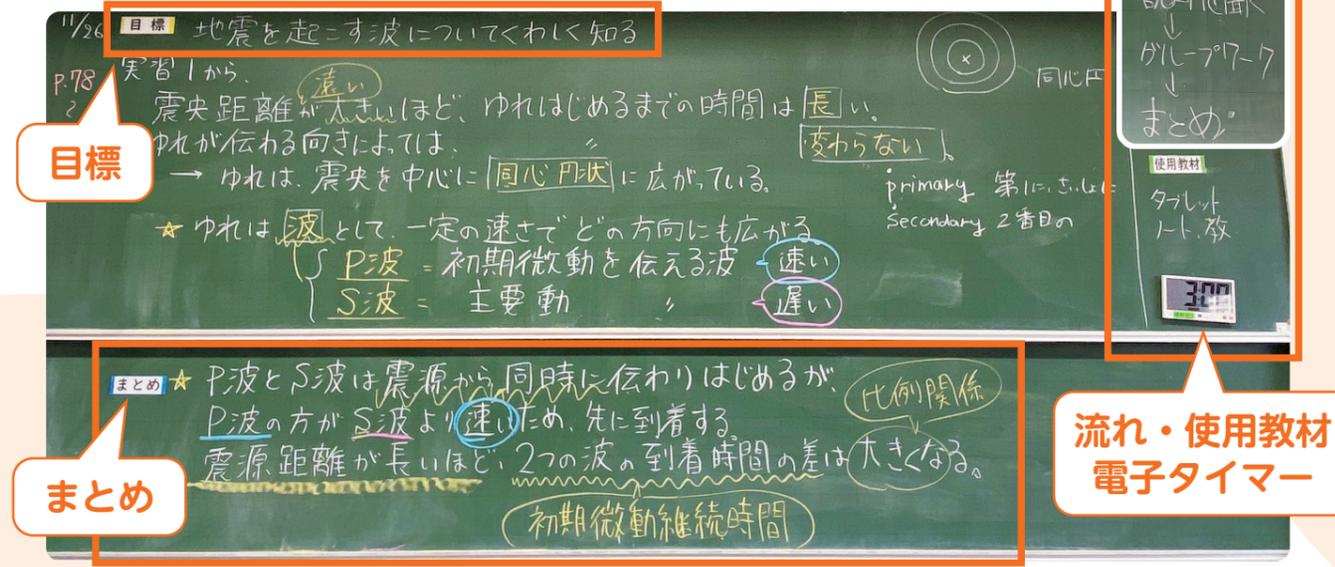
3 授業のUD化

理解しやすく、 取り組みやすい授業に



IV 授業展開の形式化

★全教室共通のマグネットの活用
すべての教科で【目標】【流れ】【使用教材】【まとめ】のマグネットを使用し、時間と場の構造化を意識した授業実践を行いました。



目標

まとめ

流れ・使用教材
電子タイマー

V 授業展開の工夫

UD化された授業というのは、生徒全員が理解できる授業と考え、焦点化し方向づける授業、共有化で全ての子どもが分かる・できる授業を実践しました。(UD化のレベル:参加→理解→習得→活用)



共有化

例：課題の学び合い

- 友人の考えを参考にする。
- 得意でない生徒が最後まで取り組むことができる。
- 得意な生徒は自信になる。



視覚化

例：生徒の感想を集約したものを提示

- 発表する時間の短縮になる。
- 視覚的に共有し他生徒の意見を参照できる。



焦点化

例：ねらいに即した情報のみ提示

- 本時のねらいを明確にする。
- 生徒は今、何をすればよいのか分かりやすい。

成果と課題

- 授業展開の形式化を行うことで、すべての教科の板書で【目標】【流れ】【使用教材】【まとめ】を提示し、生徒が取り組みやすい授業環境を作り出すことができた。
- 電子黒板の活用やペア活動・グループ活動を積極的に取り入れることで、生徒同士の共有が図られ、生徒が理解できる授業が増えた。
- 各教科の特性に合わせた授業におけるUDの形式化ができていないことが、今後の課題である。